

幼見之教育



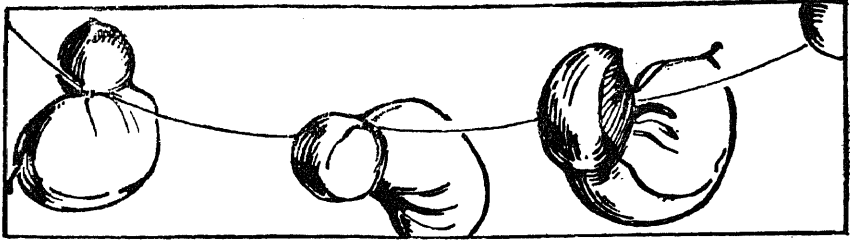
第五號

五月號

第十四卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會



第 五 號 幼 兒 教 育 第 四 十 四 卷

— (次 目) —

青葉の朝(巻頭).....	倉橋惣三(一)
高等女學校における保育實習について.....	松久義平(二)
皇國民鍊成ニ幼兒の科學教育.....	有元石太郎(七)
日本幼兒飛行機獻納貯金第二期提唱.....	(一〇)
幼兒むきの繪のこゝろ.....	齋藤善太郎(二)
人形の家(三の十一).....	及川ふみ(四)
この頃氣のついた事(二の三三).....	清水光子(五)
戰時保姆の職責の重化ニ擴大.....	倉橋惣三(六)

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

青 葉 の 朝

倉 橋 惣 三

園はすが／＼しい青葉になつた。木といふ木は若葉の新緑に映へ、わけても灌木叢が、勢のいゝ新芽に、むく／＼と盛りあがつてゐる。生々潑刺、全園が旺盛なる自然の力の漲りである。開園時刻よりも早く出勤して、子らの登園を待ち受けるのは、日頃からのことであるが、近頃は特にそれが早くなつた。若い感覺が、この五月の朝に惹きつけられるのもあるが、一層深くは、子らをしつかり護らなければならぬ今日の責任感が、一人の子をも、先生の居ない園に置いておけないからである。と同時に、もつと細かく自分を分解してみれば、今日の、ちつとしてゐられない皇國女性としての感情の、すき間なき充實と、たるみなき緊張とに生きずにはゐられないからである。

保育に生きる自分である。こうして毎日、一心に、眞剣な保育奉公につくしてゐる自分である。殊に、その自覺が専ら純に、一段と大きい今日の自分である。もう一つほゞいて言へば、今日ほど、皇國の幼児を差別なく一人のこらず、ほんとうに保育することの重要さを、胸一ぱいに感じたことがないといつてもいゝ自分である。

一人の先生は、さつきから庭を掃いてゐる。あとから／＼箒目にしつとりとした土の香が、庭中にひろがるやうである。一人の先生は、かい／＼しく窓硝子を拭いてゐる。一枚々々すき透る玻璃面にさす青い朝の日光が、室内をくつきりと明るくしてゆくやうである。そこへ、子どもが一人來た。二人來た。三人來た。先生の前に飛びつくやうに駆けて來て、「先生、お早うございます」といつては、またはねかへるやうに飛んでゆく。なんといふびち／＼した足ざりだ。なんといふきりつとした姿だ。戦時下、幼児も元氣が加はつてゐる。

かうして全園にぐん／＼と溢れかへつて來る戦時下幼児達の逞しいごよめきは、先生達の心を、保姆でなければ分らない「柔い強力」にひし／＼と盛りあがらせてゆく。今しも同じく「柔い強力」に盛り上つてゐる五月の天地と共に。

(戦時幼稚園小景 五)

高等女學校における保育實習について

文部省教學官 松久義平

一、高等女學校と乳幼児の保育

女子教育と保育。 昨年四月から實施せらるるに至つた高等女學校の新制度は、色々な點において劃期的な意義をもつてをる。數多くの改善事項中特に注目すべきものゝ一つは、教科中新に家政科育児が特設せられた事であり、更に之を擴充して、修練に於て保育實習を課することゝなつたことである。勿論從來いへども、之に關する事項は家事科の中において取扱つてきたのであるが、それは極めて簡單であつて、決して今日の時代の要請に應へる程度のもものではなかつた。之に對し新制高等女學校においては、女子教育に對する深い反省と現下の切實なる國家的要請に基ついて、乳幼児保育に關する事項を特に強化することゝなつたのである。

國體と子女の養育。「しろ金も黄金も玉もなにせむにまされる寶子にしかめやも。」萬葉の一歌人の詠んだこの歌は、吾々國民本來の感情を端的に示したものと云つて有名で

ある。我が國にあつては子供は家の寶であり國の寶である。家の將來國の繁榮は次代國民の双肩にかゝつてをるこいふも過言ではない。吾々は先祖の祭祀を大切にすることに、その志をうけついで御國に忠義を盡す子孫の養育に力を致さねばならぬ。家庭における母たるべきものゝ大切な務めはそこにあるのである。子々孫々相ついで祖先の遺風を顯彰し、皇運を無窮に扶翼し奉ることは國體の精華である。子女の養育を通して、かくの如き精華の發揚に參ずるは皇國女子の努めであり、女子教育の本領亦そこに在るのである。

國運の隆昌と保育。 子孫の養育を重んずることは家族制度を本位とする我が國の然らしむる所であるが、育児の問題が當面重要視せらるるに至つた所以はそれのみではない。滿洲事變以後における國運の隆昌が與つて力があるのである。大正から昭和にかけて一時人口の過剩が問題となつたこともあるが、それはほんの一次的現象にすぎぬ。

滿洲事變以來の國運の伸長は量的にも質的にも、吾々日本民族の異常なる發展を要請してをるのである。二十年間に

百萬戸、約五百萬人を滿蒙開拓の拓土として送り出さねばならぬ。更に支那大陸の治安維持に經濟開發に、多數の同胞を必要としてをるのである。そのみではない。更に廣い南方大東亞の各地域は吾々同胞の活躍を待つてをるのであつて、聖戰の完遂、大東亞共榮圈の建設の爲には、吾々

日本民族はいくらあつても充分さいふこゝろはない。このやうな情勢に應じて昭和十六年、人口政策確立要綱が決定せられ、昭和三十五年迄には少くも内地人口一億を目標として、その量的質的増強を期することゝなつたのである。之が爲には先づ第一に、一方に於て出生率の増加を圖ることも、他方に於て死亡率の減少に力めねばならぬ。我が國の出生率は歐米諸國に較ぶれば比較的高いけれども、死亡率も亦同様に高いのであつて戒慎を要するものがあるのである。殊に乳幼児の死亡率を結核罹病率の高いこゝろは反省を要する事實であつて、之に對し適當なる措置を講ずることゝが緊要とされるのである。こゝろに國民保健こゝろに乳幼児の保育に關する施策が、國家的に重要な問題として取上げらるゝに至つた所以が存するのである。

高女と家政科育兒 乳幼児保育に關しては乳幼児體力検査、保健所及保健婦の設置、妊産婦の養護等諸般の施策が講ぜられてをるのであるが、より根本的には從來の女子教育に再檢討を加へ、乳幼児保育に關する教育を強化し

母性の涵養を圖るを以て肝要とする。これ新制高等女學校において家政科育兒を特設し、乳幼児保育の重要性に對する認識を深からしむるに共に、之に關する基礎的理解を得しむることゝなつた所以である。

二、戰時保育の重要性

國民動員の強化と保育 大東亞戰爭の進展するにつれて軍動員は次第に強化されつゝあるのであるが、之等出征軍人の遺家族における子女の養育に遺憾ならしむる施設を講じ、第一線をしていさゝかも後顧の憂へならしむることゝは方に喫緊の要務である。更に又戰時生活の複雑化は、家庭における主婦の仕事益々多忙ならしめつゝあるのである。殊に軍需生産の飛躍的増大に伴ふ勞務動員の強化によつてその傾向は一層顯著となり、父母を中心とする家庭教育の全きを望むこゝろは困難なる事情に在るのである。戰時下におけるかくの如き家庭教育の不足を補ひ、乳幼児保育の全きを期する意味において適當なる保育施設を計畫するこゝろは極めて緊要である。そのみではない。之によつて家族をして安んじて職場に挺身せしめ、生産力の増強に寄與せしむるこゝろは亦戰時保育の意圖する所である。

空襲対策と保育 戰局の發展に即應じて空襲時に對

する萬般の備へを爲すことの必要なるはいふ迄もない。空襲に際して両親の手より離れることもあるべき乳幼児の保育をさうするかは、蓋し重要なる問題である。學童の集團疎開を關聯して、幼児の集團疎開も亦當然課題となるのである。之等に備へて必要なる準備を訓練を用意することは刻下緊切なる施策といはねばならぬ。

高等女學校と保育實習。 以上の如く戦時下における保育の重要なるに鑑み、高等女學校の修練課程中において特に之に關する實習訓練を課することとしたのである。蓋し之によつて家庭に於ける乳幼児の保育に慣れしむるのみならず、少くも保育補助者として必要なる程度の訓練を目標とし、戦時保育に關する修練を積ましめ、戦力増強の根基に培ふを以てその趣旨とするのである。

三、保育實習の要領

保育實習の場。 保育實習に際しては一般に幼稚園や保育所等の施設を活用することとなるのである。然しそれはどこ迄も戦時保育に關する實習を爲さしむるを以て旨とし、從來の幼稚園の型に捉はれるやうなことがあつてはならぬ。受託兒の如きもできるならば、出征軍人の遺家族や工員等の子女を第一とし、保育の施設及時間、保育方法の如きもそれに適應せる形態をみるものでなくてはならぬ。

高等女學校自體にこのやうな附屬施設があれば結構であるが、それがない場合には最寄の適當な施設を利用することとなるのである。常設の施設のない農村地域においては、農繁期における季節的保育施設を活用するを以て適當とする。以上の外、更に保育實習の機会となるべきものは少ない。今日全國各地域で行はれる乳幼児體力検査の如きはその一である。この検査における身體検査を手傳ひ、檢診の介補を爲すこと等は好箇の實習である。又同じく全國各地域に設けられてをる保健所の利用、保健婦の巡回指導の補助等も亦實習の好機會である。その他都市における兒童遊園、隣組保育の手傳の如きも適當に考へられる。

保育實習前の見學。 保育實習は第四學年において約六十時間之を課するを建前とする。然しこの實習に入るに先立ち、第三學年の適當なる時機において適宜見學をさせることとなつてをる。常設若くは季節的の保育所幼稚園その他適當なる施設について乳幼児保育の實際を見學させ、保育施設の一般、乳幼児の生活狀況、保育の方法等に關して基礎的理解を與へ、以て保育に對する關心を喚起するのがその趣旨である。

豫備講話。 第四學年における保育實習は豫備講話を以て始まり、保育の見習、基本實習、綜合實習の順序に従つて行はれる。豫備講話においては保育實習に入るに當つて

必要な保育上の心構、保育の要領等について説示しその他保育に必要な一般的な諸注意を與へて、實習の準備を爲さしめやうとするものである。

保育の見習。 保育の實際を手傳ひつゝ保育の要領を見習はしめやうとするのである。之に要する時数は事情に應じて適宜定めてよい。之によつて保育實習の第一歩を踏み出すのである。

基本實習。 次で保育に必要な基本的事項を一定の計畫に基づいて實習する。保育實習に充つべき時數の大部分は之に充當せられるのである。その實習に當つては特に乳幼児の身心の發達及健康狀態その他幼児の生活狀況等をよく觀察せしめて、乳幼児の生活に對する理解を深からしむるにミミもに、乳幼児の躰及保健の指導、幼児の遊びミ作業の指導より、團體行動空襲待避の訓練に至る迄保育の全般に互つて基本的事項を實習せしめるのである。基本實習事項の概要を示せば次の様である。

(一) 國民的情操の涵養

(二) 保健の指導

1 榮養

2 養護

清潔・睡眠・排便等

日光・空氣・被服等

歩行・運動等

3 救急處置

(三) 躰

1 言葉遣ひ・相互生活

2 食事・清潔・整頓

3 其の他の良習慣

(四) 遊びミ作業の指導

1 談話・遊戲・音樂・觀察・手技等

2 自由遊び・誘導遊び等

(五) 團體行動の訓練

(六) 空襲待避の訓練

綜合實習。 綜合實習は實習における最後の仕上ミして少くも五日以上、乳幼児保育の全般に互つて綜合的に、全日實習せしめるのである。こゝに於ては保育計畫ミ保育案の立て方について指導し、保育一日の行事を實踐せしめるのである。保育の前準備から後始末に至る迄の保育事務について實習せしめるこゝはいふ迄もない。更に一週・一月・一年の保育計畫についても適宜指導するのである。

保育實習指導上の要點。 保育實習は必ず保母其の他責任ある指導者の指導の下に實施するこゝミなつてをるこゝミに注意せねばならぬ。又一歳半以上の幼児の保育ミ、一歳半未満の乳兒を主ミする保育ミに分つて實習せしめるこゝ

ミマなつてをる。幼児の保育に關しては、更に之を三歳未満の保育ミ三歳以上の保育ミに分つて實習せしめ、三歳以上の保育に於ても、年少兒ミ年長兒ミの相違に留意して實習せしめるこゝを建前ミしてをるのである。乳兒の保育に關しては特に慎重を期し、産院・乳兒保育所等の如き人的にも物的にも施設の備つた所に於て實習せしむるを以て原則ミし、その施設を缺く場合には、乳兒のある家庭その他適當なる施設について、適宜實習せしめるこゝミなつてをるのである。

以上高等女學校における保育實習の大意について述べた。この實習は既に四月から實施に入つてをる筈である。學校自體に附屬の幼稚園や保育所等が實習の場所ミしてない。従つて既設の幼稚園や保育所等が實習の場所ミして選擇せられ、これ等の幼稚園や保育所に勤務せられる保姆先生方の指導を受けてをるこゝミ思ふ。之に御關係の先生方は、この保育實習の趣旨の存する所を充分に了解せられ國家の意圖するやうな成果の擧がるやうに、御協力あらんこゝを切に御願ひする次第である。

是非希望したいこゝ

高等女學校の保育實習は誠に欣ばしいことである。それだけに唯一つ氣になる問題がある。保育實習のために高等女學校へ設けるのが幼稚園でなく保育所といふことになつてゐることだ。前に幼稚園、保育所と實習せしめようとなつてゐるのに對して聊か偏してゐる感がある。が之れは幼稚園令に府縣立の規定がなく、公立高等女學校の場合困るからに他ならないのである。保育所でも必ずしもいけないことはないとしても、それでは保姆の待遇がどうなる。法規によつて待遇のきめられてゐるのは幼稚園保姆だから、校長は配下職員として別の工夫を考へなければならぬし、保姆さんも考へるであらう。——そこで解決はなんでもない。幼稚園令のその個條が改められて府縣立幼稚園の規定さへ出來ればいゝのである。是非そうしたい。

殊にこゝにいふ保育所は、たゞの託兒所でなく、幼兒教育の場所としての保育所であり、充分教育性を見てもなければならぬのであるといふ、文部省當局の言明もある。してみれば、はつきり幼稚園である筈である。幼稚園令改正も近い事と期待してゐるが、それをさへ待たず、早速に何か便法はないものかとも思ふ。

高等女學校に保育實習を加へたいことは、われらの疾くに主張し來つてゐたことであつた。それが、その一般的教育的理由の上に、戦下の必要から促進され、實現されたことは、よろこびにたへない。それにつけても、高等女學校附屬幼稚園の實現こそ、是非希望したいことである。尤も、私立高等女學校に私立幼稚園が附設せられるのは、許可さへあれば、今の幼稚園令で直ぐ出來る筈のことである。(記者)

皇國民鍊成と幼兒の科學教育

東京都立武藏高等女學校

有元石太郎

誤つてゐた過去の取扱ひ

前に述べましたやうに幼兒は様々の科學疑問を出して、屢々私共を困らせませんが、吾はこれをさう取扱ふのが皇國民鍊成といふ上から考へて正しい行き方でありませうか。

三、四歳になつて物の名を盛んに聞き出します。母親はすぐにその名前を答へてやります。一步幼兒の智能が進んで因果關係を尋ねた場合にも、何んが理由をつけて教へて來たのではないでせうか。例へば「なぜ頭の毛は黒いの」をいふ質問をしたとします。一寸答へに苦しんで何んが理由をつけてごまかしますが子供は中々承知しません「でも西洋人は褐色だが」を反問します。さういふさいさいつて叱られるか、又は色素問題を持ち出して自身にも子供にもわかつたやうなわからないやうな取扱ひをして來たことが多かつたのではないでせうか。若しさうだしますと吾々は皇國民鍊成の立場から少し反省してみる必要があるやうに思はれるのであります。

教へるといふこと

幼兒の質問が始まつて物の名前を聞き初めたとき、親が澤山名前を教へて、數千種の植物の名や物の名を知つてゐる幼兒を造つても、日本科學水準の向上にどれ程役立つかは大いに疑問であります。こんな子供が何百人出來てもそれだけでは植物學の發展は望めないでせう。所謂神童の作成に終るのではないでせうか。教へるさいふよりも見させ、見させるよりも直接あらゆる方面から經驗させるさいふ考へ方ではなくてはなりません。

例へば四歳幼兒が「月はなぜ落ちないの」を質問した場合に、教へるさいふ立場をこつて色々苦心して引力の説明をしたと致しませう。これが果して本當に子供に理解出來るでせうか、出來たとしてもそれは頭だけ理解だけの子供、口先だけの子供が出來ませう。子供に教へ過ぎてゐますと子供は自分から考へるさいふが少くなります。その上に今迄盛んに質問をしてゐたものが急に質問を嫌ふ一原因をつくります。なぜかを申しますと自分の感じた疑問は親

が案外安々々答へてくれます。子供にまつては全智全能の両親でありますから、ごんなにごまかされてもそれを信じて「ああわかつた」に安心をしてその事物現象を一つの概念として把握して仕舞ひ、更に自分が直接経験を試みやうといふ意欲に進むこゝが少いからそれ以上の進展は中々望めないであります。つまり強烈な求知興味の進行がありませんから段々に質問が少くなります。この事實は各人経験されてゐるこゝであります。あれ程質問をして親を困らせた子供が學童位の年齢になるミブッスリミ綱を切つたやうに質問をしなくなる原因は種々ありませうけれども、吾が教へやうミ努力して來た所にも大きい原因を認めないわけにはゆきません。質問に對して親は安々々教へて呉れます。「さうだわかつたか、またわからぬか、これでもか、頭が悪いね、こゝだよ。」ミ來る。素材を子供が提供した一種の注入教育でありますから質問した子供の銀線に觸るこゝがありません。ですから次第に質問するこゝに興味を失ひます。質問をしたミ相手得々ミ教へて呉れるこゝいふ現象は、自分を弱者の立場に置いてゐるこゝに卑下に氣がつく頃になります。質問をするこゝに卑下を感じ恥しさを感じ始めます。自分の質問はわかりきつたこゝではなからうか、皆が笑はないだらうかといふやうに次第に自己が現れ始めます。親なり教師なりが得意になつ

て質問に對して説明すればする程、自分は對者より下位にあるこゝを強く意識するのであります。指導者が餘程その質問に共鳴して頂けない以上又は極めて強烈に惹起された疑問でない以上、心理的に質問を回避しやうとするのであります。餘りに距離があり過ぎるために、くだらない質問だと思はれるのがいやなのであります。その結果か學童は餘り質問を致しません。逆に學童も生徒も教室等で續々ミ質問をする場面を想像してみませう。「先生花粉がメシベに着くミ子房が大きくなるのはなぜですか」このわかり切つた質問も先生はニコニコしながら共に考へて頂けます。このやうになつたミこそ、彼の一九一〇年フィッツキングの子房發育ホルモン發見を待つ迄もなく日本諸學の發展は輝やかしいものがあるであります。日本科學の立おくれは子供の質問を尊重しなかつた爲めその科學的興味が減殺されたところに一半の責任があるミ考へてよいと思ひます。

子供の問の正しい取扱ひ

子供が質問をしたらすぐこれを教へやうとする立場を先づ棄て、頂きたいのであります。さうかさいつても、さあ考へよ、これでもか、これでもわからぬか、こゝいつては尙困りますが、教へるこゝいふ考へよりも、先づ見させる、考へさせるのであります。この場合、子供の心になつて一緒に驚き驚異を感じるこゝいふ態

度でなくてはなりません。さうすれば子供は必ず釣られて平凡な質問をもするやうになり興味を一層持續することが出来ます。「さあ一緒に考へませう。面白い質問ですね。さあ實物をよく御覽、晝に描いて御覽、そしてよく考へてみませう。これはさうなのでせうね。あつうまいこ考へついたね。さうく發見したね」さういふ工合に總べての疑問を知らず知らずの間に自分で發見したかのやうに導けば子供の興味は一層深まつて來るのであります。子供と別の世界にゐて説明するのでなく、子供の心の中に入つてその流れに從つて正しく導くのが上の策であると思ひます。「お月様はなぜ落ちないの」「引力のためだよ」「引張る力さういふけれどもお月様を引張つてはるません」「でも引張つてゐるのだよ」「みえませんが」「うるさいねこの子は。叱つてはいけません。胡麻化してもいけません。それは神様が落ちないやうに支えてゐらつしやるの」「さういふ取扱ひをして一應子供に納得をさせても面白くありません。このやうな取扱ひは決して皇國民鍊成にはなりません。このやうに回答に困る質問に打突つたときは「さあなぜでせうか」「さういふ疑問として残しておけよ説かれる學者もありますそのまゝ疑問として残しておけよ」と考へられますが、單に残すだけでは皇國民の鍊成になることは考へられません。私はこの場合子供の心的發展段階を考察して更に次の段階へ到達するやう疑問の發展的殘留さういふことを主張

する者であります。今迄私共の周圍で見ても、子供の質問に對して答へられない場合は大抵の方が「さあなぜでせう」と答へてそのまゝにされておられますので、子供の更に疑問を深めて研究しやうさういふ意欲は永續しません。例へば三歳の子が「これ何に」と尋ねたときは單に「歟」と答へただけです。その子はもうそれで満足して、それ以上の進展がありません。彼はもうその本質に觸れたつもりでありますから。この場合一步上の心的發展の「これ何にするの」「さういふ質問へ子供の考察を向けるのであります。逆にこちらから質問をして、子供がその事物現象に對して更に關心を拂ひ疑問を深めこれを自分で解決するやうに導くのであります。次の段階は事物の由來を知りたがり、更に進めば論理的根據を求めるとなつて來ります。ですから若し「雨はなぜ降るの」と因果關係を尋ねたときは、先生は「さういふ降るのでせうね」と逆に疑問を次段階に進展させて連續的に觀察させます。このやうにして科學心の次段階への進展を幼兒の心理的發展程度に從つて取扱ふことによつて科學水準の向上が見られるのであります。要するに教へるよりも遊ばせ、作業させ、行はさせ、感じさせ、悟らせて子供の科學心を健全に發達させること皇國民鍊成になるのであります。(二)

日本幼児飛行機獻納貯金第二期提唱

日本幼児飛行機獻納貯金の提唱に對する全國各地の幼稚園の御共鳴と御賛同に就ては、本會の誠に感激したへぬところであります。第一期締切は二月末日といいたしたのでしたが續々御寄託下さつた貴い獻納金額は本誌四月號御報告の巨額に達しました。本會として感謝の至りであります。

實を申せば、最初の提唱としては、御獻納總高の豫想が立ちませんでした。御賛同は確信してゐましたが、實額に於て必ずしも多きを豫期してはならぬとも考へたりしてゐました。従つて果して一臺の飛行機が獻納出来るか、それが出来なくとも、せめて一翼となり、機體の一部にでも豫告に書きましたやうに、一部の費用として獻金し得るに止まるか、それは結果を待たねばならぬと思つてゐました。勿論初めから第三期、第三期と繼續の豫定ではありましたが。

然るに此の實額が、すなはち第一期だけで、軍用飛行機一臺獻納額金八萬圓の半ばを超えた盛果に對しては、之れに第二期御寄託を併せて是非「幼児號」を獻納いたすことにしなくてはならぬと所期するに到りました。殊に、御送金と共に寄せられた各幼稚園皆様の御熱意のほどが、いづれも「日本幼児號」の御切望にあるを知りましては、第一期分だけを切つて部分的に獻金いたすのは遺憾であるといふことが感ぜられました。

すなはち、更に第二期の御寄託により、總額金八萬圓に達するを待て「日本幼児號」の獻納手つゞきを執りたいと思ひます。刻々苛烈を加ふる戦争の深刻性に對し、お互に一日も早く計畫を實現したく、寸時の遅延をも許されないのであります。どうぞ第一期に於ける御熱心をそのままに、更に一層の御盡力を以て必ずしも第二期締切を待たず、幼児達の純一なる愛國の心を具體化させたいものであります。第一期に對する感謝と共に、第二期に對する切なるお願ひを披瀝する次第であります。

規定

- 一、各園で幼児の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。
- 一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。
- 一、各園名(所在地、代表者名も)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛)お送り下さい。行き違ひの起らぬ爲に必ず振替貯金にお願します臺灣は必ず電報爲替にて御送金下さい。振替口座(東京一七二六六)、「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。
- 一、第二期締切は昭和十九年六月末日とします。
- 一、全體をまとめて直ちに軍に獻納します。
- 一、獻納には御寄託各園名を列記します。
- 一、別に受領證を差上げず、獻納完了と共に、本誌(昭和十九年九月號)に發表します。
- 一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の全額全部を獻納します。

昭和十九年五月

日本幼稚園協會

(責任者 倉橋惣三)

幼児むぎの繪のこころ

——紙芝居の挿畫などに對する一つのながひ——

齋藤善太郎

幼児の紙芝居のことを指導してゐられる先生が、その御指導の下にかいた或る保育科生の紙芝居の繪を見せて下さつた。私は——素人のくせナマイキながら、そんな反省をする暇も無く——「固いですネ」と直ぐ言ひ放してしまつたのでした。これは確かに妄評で、そんな亂暴な評をしてはならぬのであることを、其の先生の諒々と話して下さる保育と紙芝居の關係、したがつて紙芝居に使ふ繪のどうして固いまゝ——マア概念的でも云ひませうか——でなければ保育上のさしあたりの用を足さないかなどからすれば、私としても肯かれはしましたし、今も十分其の先生の云はれるところを肯定してはありますが、併しなほ納得のいかない何かが残ることは残るのでした。

○ その前でしたか後でしたかは忘れま

が、とにかく略く同じ頃、私は友人とこの子供の——幼稚園に行つてゐて一等小さい組にゐる女の子の——描いた「電車」の繪をみせられたのでした。繪といふよりは素描で、紅いクレヨンで描いた、電車だといふ

其の素描は、「コレ、テンシャ」と云はれなければ分らんほどの、ホールとか、車體とか、窓とか、車輪とかなどはむしろ整つてはゐないものながら、私は「あゝ、電車ですネ、いゝ電車だね」とツイ云はせられてしまつたのでした。といひますのは、子供がちょうど立つてゐて、停留場などでハッキリ對象としての電車が自分の前に迫つて来たときにクツと受けたらしい感じ——その胴體の所、よく市なら市のマークのはいつてゐる。そして稍々ふくれ氣味の、廣い感じのする。そして少し埃など浴びて薄曇つてゐる面の感じ——少くとも然ういふもの對象としてのテンシャが、そこに實に生

きく描き出されてゐたからでありませう。そして其の幼児の作品と、さうした感受をするものと大體において云へる園児などに見せる紙芝居の繪とを、なんどか正しくまた麗はしくつなぐことが出来ないものかしら、といふ願ひが——然うです。私にとつては第三者の願ひであります——私をしていつも幼児向きものゝ繪に對する割り切れなさをツイ持たしてゐることになつてゐるのであります。

○ 其の先生から生徒の作品なる其の紙芝居の繪をみせられた時も、かうした「願ひ」、若しくは「割り切れなさ」が、ナマイキにも私をして「固いすね」と暴言をウツカリ吐かしてしまつたのでした。そして其の時もたま々側の机の上に參考にもと列べてあつた新しい國民學校の教科書の方に行つて、其の中の挿畫を其の先生にもお見せしながら、このごろどんなに美しく挿畫がなりつゝあるかなどを話しあつたのでしたが——少くとも此頃の正に藝術家達の勞作になれるといふ挿畫は、私の願ひを聞きとめて、くれるやうに思はれて、第三者的、

父兄的にはまことに嬉しく感謝さるゝのであります。

さうしてゐるやさき適々私はひそかに尊

敬してゐる兒嶋喜久雄先生の「希臘の缺」といふ本を秋日のあたる午後の窓で讀んで、そこに「寫實」の事が、論ぜられてゐる所を見て(その本の八二頁以下、「寫實主義に就いて」)、「ワン、これ」、兒嶋氏も言つてをられる。權威者が解いて、くれるではないか」といふ、傍證をしてもらつたやうな悦びで、これを書きかけてみたのでした。

○ 紙芝居はたしかに現實的な繪でなければならんでせう。殊に生活指導に眼目を置いた場合のものなど。しかし——覺書みたいなものを並べることをお容し下さい——願ひとしては、一、幼兒なら幼兒の感受性に即する現實性を持たして欲しいし、二、まだ未分化な幼兒に對してであるから折角美しいものを使ふなら本當に美しいものであつて欲しいなあとは思ふのであります。

兒嶋先生は言はれます、

「我々は日常夢の世界や空想の世界に遊んでゐるわけではない。また瞬間的印象に即して生きてゐるでもない。さればと言つて抽象的な概念の世界に生きてゐるでもない。」

殊に幼兒は決して、「抽象的な概念の世界」のみには生きてゐないと思ひます。

そして大人も然うであるが幼兒は殊に、兒嶋先生も言はれるやうに

「五官は御承知の通り視、聽、觸、嗅、味の五感覺であります、我々はそのうちで先づ視覺を通じていろ／＼のものを知る。又、觸覺の體驗が視覺の體驗と結

びついて、眼で見たとけで、色や形のみならず實を知つたり、遠近の關係、厚み、深さなどをすることも出來ます。(傍點は引用者のもの)といふやうにして、現實のつかみ方、對象をもつて現に捉へてゐる其の仕方は、固い挿畫——概念的抽象的説明のみに終つてゐるやうなものとは——とは稍く距りがあるやうに思はれてならないのです。「現實的説明的」でない幼兒に分らない」といふ意見も、これも實際から來てゐる現實のことなどではあるが、

しかしさきの固い繪のやうなのを見ると、そこにモウ一步進めなければならん現實への方が有るやうに思はれてならないのであります。

之は取除けの場合かも知れませんが、兒嶋先生によりますと、

「初期の繪畫の素描を見ますと、眼はいつでも正面からうつし、鼻はきまつて側面からかくといふ事になつてゐます。之れは最も強い印象の記憶に基いて描いてゐるからであります。……プリミティブな時代の人々は自分達の生活に近いものばかり描いてゐます。スペインのアルタミラや佛蘭西のフォンドゴムの壁に描かれた動物繪を見ると、原始時代の人の描いたものは中々實寫的であり、す。彼等は狩獵をして動物を食物として生活してゐたので、彼等の關心は常に動物の相や狩獵の光景などにあつたらしい。そしてそれが彼等の記憶に一番ハッキリ刻みこまれてゐたのであります。背景などはなしに動物の姿態だけ描いてゐる。あれは恐ろしくまく描き出してゐる。然しあれは例外でそれからすつと

後、一般に寫生といふ事が始まつてから
初めて正確に現實界の相を完全に描き出
すことができるやうになつて來るのであ
ります。

とあります。幼兒の繪は幼兒の繪なりに
「實寫的」であること、しかし「正確に現實
界の相を完全に描き出す」のは後であるこ
と、だが併し幼兒なりには其の作品は相當
寫實的實寫的なものであること、そして然
ういふ作品を描くやうな感受を持つものと
しての幼兒向きの繪などの指導上の心得な
どについて、多くの教示を此の兒嶋先生の
一節から受け得るやうに思はれます。しか
も其の「プリミティブな人たちの繪が、
「あれは恐ろしく、ま、描き出してある」と
他ならぬ兒嶋先生が言つてをられるところ
からすると、さらに此の一節は、私達に、
私のいはゆる「本當に美しいもの」、藝術的
にも麗はしいものを使つてもらひたい。と
いふ念願へ、強い教示をして下さるやうに
思はれるのであります。

覺え書きみたいなのが餘り長くなりま
すからモウうちきるとしまして、勝手に兒

嶋先生の言葉をおかりすることにしますが

「藝術上の表現の目的とするところは吾
吾が自然の觀照に即して、感じる感情の表
現であります。繪畫は決して標本圖の
やうなものではありません。」(感情と○
印をつけた所は原文のまゝです。)

願はくば幼兒の觀照にも即し得るやうな
その意味で幼兒にとつてもまた麗はしくあ
るやうな、そんな紙芝居の繪がほしいなあ
と念願されてならぬのであります。こゝに
ナマイキな言ひ分ではありませんが、

幼兒の感受性に即する現實性を持つては
あるが——固く、干からびて、平板で、
文字を線と色に直したやうなものではな
いところの、

そしてまた未分化な幼兒に對してである
から本當に美しいものであつて——さら
ばといつて夢みたくない幻的なものではな
いところの、

即ち、「正しく且つ「麗はしい」ところの
ものが、與へられる道が有るのではないか
と思はれるのであります。(一個の素人の
念願として、)

幼稚園を耕しませう

幼稚園の園は子ども成長の教育
園ですが、そこには野菜園の餘地は
ありませんか。舗裝地の都會幼稚園
は別として、一般には種子の蔭ける
土の面積がある筈です。幼兒の潤達
に遊べるだけは殘して置いて、少し
の空地でも、それ／＼場所に即して
小農園にしたいものです。殊に従來
の花壇は、そのまゝ小農園にかへら
れるべきです。大きな菜葉の縁。小
さいながら白や黄の野菜の花、やつ
ぱり立派な美觀であります。

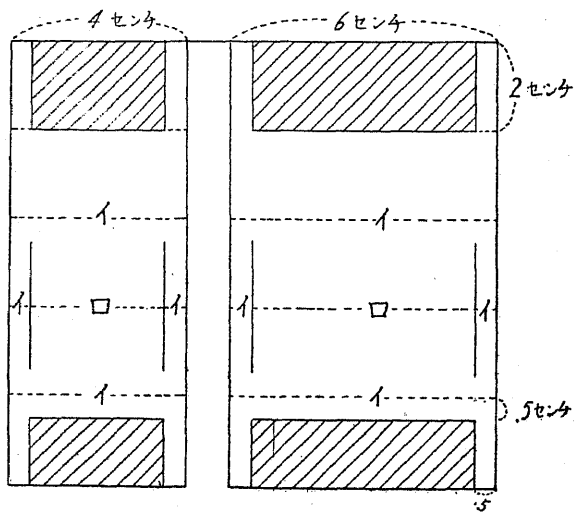
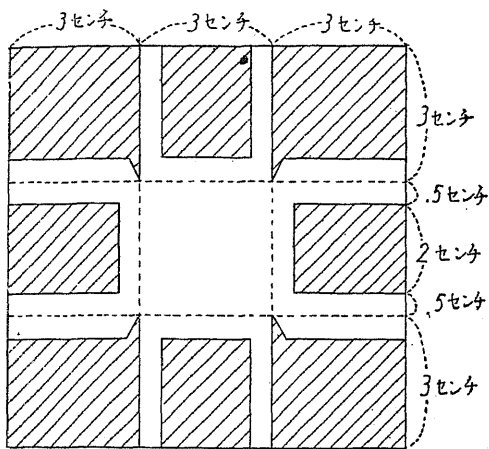
保姆さん方は、趣味的な園藝の知
識ほごに、實用的な農耕の知識をも
つておられるでせうか。今まどう
であつても、これからでも研究しな
ければなりません。それに、園藝用
の小さいシヤベルは器用に使へても、
重い鍬がしつかり使へますか。又、
手ぎれいな水撒きよりは少々ポンと
來る肥料の扱ひに慣れておますか。
たゞに増産問題、食糧問題とし
ての外に、教育問題として是非おす
すめします。戦時保育の一場面とし
て。(く)

人形の家 (その一)

及川 ふみ

古はがきで人形の家を作つて見ませう
机 古はがき一枚

別圖の如く一枚のはがきを縦、横ともに三センチづつに折目を入れて、机の脚の幅を五ミリとし、斜線の部分は切り落す。



小椅子 二つ 古はがき一枚
横四センチ、縦一〇センチの臺紙を二センチづつに折目をつけ、斜線のところは切り落す。イの部分は前に折りヒヂカケにする。ロの部分は後に折り目をつける。椅子の後のもたれになる部分は糊で貼り合せる。

長椅子 一つ
古はがき 一枚

小椅子同様にイの部分
分は前へ折目をつけ、ロの部分は後へ折目をつける。

机、小椅子、長椅子
ともに古はがきの文字が見えない位にクレヨンで茶色などに濃く塗る。

此頃氣のついた事二つ三つ

附屬幼稚園 清水光子

事新しく言ふ迄もない事ではあるが、この緊張、緊迫した一日／＼の中での幼稚園で、氣をつけたと思ふこと、斯うしたいと思ふことも多いが、私の乏しい経験で氣のついたまゝ思ひつくまゝを二つ三つ記して皆様の御批評を仰ぎ度いと思ふ。

一、健康について

日光に當てること。—榮養その他兎角充分を期し難いのであるからまづ出来るだけに當るやうに度い。平凡なことであるが今こそ暑からず寒からず日なたで遊ぶにいい頃である。自由遊びの時はもとより、遊戯やお仕事、おべんどうも出来るだけ外で、日なたでさせ度い。お仕事の爲に内遊びの時間が多くならないやうにしたい。外の時間が多いと管理上からは眼を廣く使はねばならない點で先生としては骨が折れるがそこを上手に、出来るだけ日にあたるやうにしたいと思ふ。

姿勢——「背中を伸ばせよ」と時々注意して正しい姿勢の習慣をつけたい。お仕事、おべんたうの時特に氣をつけてきちんとした姿勢になれるやうにし度い。

歩き方——正常歩運動といふのがあつたが、子どもの中から正しく歩くやうに、すぐ走り歩きチヨ／＼歩かさないやうに、急ぎもしないのに走り出してしまひ度の年齢でもあるけれど、せか／＼いら／＼とした様子で歩くことのない、これも習慣をつけたい。

二、生活訓練の中で

先を争はないこと——一列勵行と子ども達も言つてよく並ぶ、が並んであつたら先を争ふことがあるのを氣をつけたい。押したり先の人がおそいと言つて怒つたり、並ぶ順を争つたり、子どもの自己中心をさらけ出してゐるのはみにくい。

おべんどう——今時好ききらひやこぼした

り残したりを氣をつける迄はないがおべんどうに關心を持ちすぎないやうにしたいと思ふ。幼稚園の一日の中で一番楽しい時の一つはおべんどうなのであるが自分のもつて来たものをふいちやうしたり、人のものを羨ましがつたりする事のないやうにし度い。これは中々面倒であるけれど何より自分のいたゞくおべんどうを感謝するやうに言ひきかせてお行儀のよい食事をさせたいと特にこの時代の子どもだからこそ食事のお行儀として正しく明るくさせたいと思ふ。兵隊さん、お父様お母様ありがたうを言ふのもいたゞきます、ごちさうさまも心から言ふ習慣をつけたい。

言葉づかひ——子どもらしくしかもいいいな言葉づかひをさせ度い。大人の氣持態度は何につけて子どもにうつり易い。この頃のやうに大人の世界がピンと張切つてゐる爲、激しくかたくなつてゐるので言葉づかひが荒つぽくなり易い。子どもがそのまま荒つぽい言葉や態度にならないやうに、人に對して穏やかな言葉をいつも使ふやうに子どもの中から氣をつけたいと思ふ。

物を大切に——これも今更言ふ迄もなく大

切にしなければならぬのであるが、それが一歩進んで大切にするの餘り、自分のものを確保したいといふ方が先になつて予ども乍らにまことに世智辛いと思はれるやうな事が時々見受けられる事は悲しい。自分の分をしまつておいて人に貰つたりするやうな事が無いやうにし度いと思ふ。

落付いて物を見る——何事も粗雑になり易いこの頃機會ある毎に自然物に親しませて物を見る態度を養はせ度いと思ふ。石の下

戦時保母の職責の重化と擴大

倉橋惣三

に蟻の巢があつたらみんなを呼んで来てみせやう。木の下にくもがはつてゐたらみるとか、小さい草がさいてゐるのをみるとか興味のあるものからいつまでもあきずにみてゐるやう、みてゐる時はさまたげず、いろ／＼興味を引出すやうに話し合ひひやみせるやうにしたい。又自然物ばかりでなく機械でも何でも機會ある毎にみるやうにし度い。心に餘裕のある生活態度はこんな所からも養はれるのではないかと思ふ。

要とすることが少なくない。健康上の點も、性情上の點でも、家庭を補ひゆかなければならぬことが多々あり、又社會的變化に善處しなければならぬことも少なしとしないであらう。更に戦時下保育の時局性を十分に正しく發揮せしめるために、保母諸君の逞しき努力の必要が要求せられてゐる。決して、平時のまゝではあり得ないのである。

戦時において保母諸君の職分が、先づその擔當の幼児達のために保育の周到をつくすにあることは言を保たない。しかも之は平時と同じであるが如くして、事實上は決して平時と同じでない。幼児の生活そのものが平時と同一でないからである。戦時下の家庭生活、戦時下の社會生活につれて戦時下の幼児生活は、保育の一般の周到を必

しかも今日、幼稚園保母諸君の職責は、

單に日々の戦時保育を十全ならしめることに止まらず、常に身を以て幼児を護つてゐなければならぬ大覺悟を伴ふものである。空襲必至の聲を人々はそれ／＼の立場においていろ／＼に聞くのである。國民として國家的に警戒準備するのは共通であるが、銘々の職責によつてその心に備ふるところが異らなくてはならぬ。主婦は家庭防空の擔任者として、吏員は特設防護團員として、警防團員は町のために村のために、而して保母諸君はその擔當の幼児達のために、常に身を以て備へてゐるのである。一旦敵襲に遭ふ時、己れ死しても幼児を護らなければならぬのである。毎日の幼稚園の通勤が、不斷にこの覺悟を以て、行はれてゐるのは、戦時下保母の特有なる、そして最も重大なる職責である。親も國家も、保母の職責に信頼してのみ、この苛烈な決戦下の保育施設を繼續してゐるといつてもよい。

三

しかも之れら職責は、幼稚園に職を奉ずるものとしての當然本來の任務である。いはゞ保母諸君の本業である。ところが茲に

戦下更に加はり来る職責がある。箇々幼稚園の保姆としてではなく、幼児保育の専門家として立つものが、廣くその特殊能力と經驗とを以て、廣く國家の幼児のためにつく

さなければならぬ場合である。一朝敵襲によつて一般生活が混亂せられることがあつたとして、その中にあつて、毅然として身を挺し、世の幼児を引受けなければならぬものは、先づ日頃からの幼児保育者である筈である。この時、特定のわが幼稚園の保姆としてではなく、市の村の國の保姆としての職責である。そういう場合、當然の必要から動員せられるでもあらう。しかし、

動員せられると否とに拘はらず、自ら挺身するのが、平素、幼児保育者を以て任ずるものゝ職責である。このためには、實は平生からの心づもりも、實地の計畫も、一通り各自の胸中にある位でなければなるまい。あの空地を使はう。あの物資を持ち出さう。自分はどういふ手順で動かう。そして、幼児に關するかぎり、私が引受けようといふのである。或はこの用意にまで到らないとしても、臨機應變、身を捨て職責を死守する丈の覺悟がなくては、苟も戦時

保姆といへないであらう。職域奉公という言葉は、保姆諸君にとつては、こゝまでの意味をもつのである。

四

職域といふものゝ、元來幼稚園の保姆としての任務から見れば、その職責の擴大といはなければならぬ。素より附加的擴大といふよりは、國の幼児保育者としての本來の職責に外ならぬのであるが、平時において意識せられてゐる職責に比すれば、その以外に出でたものである。

平時において意識せられてた保姆の職責と別の職責がもう一つ加はつた。それは幼児の直接保育の他に、保育法の一般化に對する指導者としての職責である。

戦時幼児問題の緊急に對して、所謂本職の保姆以外、一般の女子青年に集團保育の少くも補助者としての修練を與へて置かなければならぬことは、今日の通説であり實際である。その一つの實際として、たとへば隣組保育の問題がある。隣組活動の多種多方面の中に、その幼児の共同保育といふことは、場合によつては、最も重要なことの一つである。殊に全組合員が防空の任に

當るといふ如き非常の場合、幼児の共同避難とその保育とは隣組内女子青年に委ねられるを便利とする。そのために、それらの女子青年に豫め幼児の保育に關する修練を授けて實習させて置くことは極めて必要である。

更に隣組内の活動に止まらず、前に述べた如く廣く社會的にそうした必要が起ることを豫想する時、所謂保育補助者として多數の女子青年に保育の修練を授けて置くことも極めて必要である。今四月より實施に入つてゐる高等女學校保育實習指導に關する文部省の計畫は、すなはちその具體的實現である。此のためには高等女學校に保育所の設置が奨励せられてゐると共に、一般幼稚園、保育所がそのために利用せられることもこれから益々多くなつてゆくであらう。而して、そこで高等女學生の保育實習の指導に當る人は保姆諸君に外ならぬ。これを裏がへしていへば、保姆に保育者以外新たな指導者としての職責が加へられたのである。この種の職責は從來にあつても、師範學校附屬幼稚園の保姆にはあつたことである。それが一般幼稚園、保育所の保姆

に、實習指導者として課せられ來つた譯である。

保育實習指導は、保育經驗者の實力によつてせられることで、その中心が實力にあるとはいふまでもないが、幼児の扱ひとは別な、青年指導の能力が併せもたれなければならぬ。端的にいへば、幼児保育者と共に青年教育者になるのであるといつていい。職責の著しい擴大である。

その指導の方法殊に要訣については、別の機會の詳説を期して、こゝにはそこに入らないが、兎に角、指導には又特殊の工夫を要する。少くも幼児の直接保育に没頭するだけでは完ふし得ないのである。而して保姆諸君、殊にも若い保姆諸君には、幼児に對する適任者として、餘りにその適性者であるだけに、實習指導者たるを好ましくない人も稀でない。こゝに單なる擴大にとゞまらざる問題も生じ來るのである。

五

職責の變化といひ擴大といひ、保姆の任務の向上に外ならぬが、その本義においては、保姆としての充實に外ならぬのである。たゞその自覺だけでは濟まされぬ。況

してや、自尊だけのことではない。その重化に對しても、殊に擴大に對しても、保姆本來の一層の充實を心がけなければならぬことである。

従つて、この重化と擴大に心を捕はれたり追はれたりして、本來の擔當の組の幼児保育を假りにもおろそかにし、留守にしてはならぬ。それは本務上許されぬことであるばかりか、そういふことでは保姆としての實力の不斷の修練を怠ることになるのである。どこまでも力は内に養つて、その及ぶところ外に廣くなくてはならぬのである。戦時保姆の心がけ誠に容易ならずである。

最上の趣味教育

決戦下、趣味教育でもないと言ふのですか、豪華な活花や、けんらんたる額で保育室を飾ることは、今日出來もしないことです。しかし、ふさわしくないことです。しかし、そんなことではなしに、最上の趣味教育法があります。それは、部屋の整頓と清掃とです。

勿論、保育時間中、幼児の活動に即して、整頓清掃ばかり氣にしてはゐられません。亂雑と不潔とが戦時下の保育室といふ譯ではありません。戦場ではないのですから。

整頓清掃の美はいふまでもありません。恐らく室内美の極意といつていゝのでせう。幼児の感じ易い心に、その影響がない筈はありません。不整頓不清掃の室の子らの、なんとしても粗野で亂暴なことは、その反對面を證してゐることです。

整頓清掃そのことの趣味教育の他に、そのためにために働く保姆さんの趣味が、どんなに有力な趣味教育であるかはいふまでもありません。